

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成20年1月17日(2008.1.17)

【公表番号】特表2007-513896(P2007-513896A)

【公表日】平成19年5月31日(2007.5.31)

【年通号数】公開・登録公報2007-020

【出願番号】特願2006-543369(P2006-543369)

【国際特許分類】

A 6 1 K	45/06	(2006.01)
A 6 1 P	25/24	(2006.01)
A 6 1 P	25/18	(2006.01)
A 6 1 P	3/04	(2006.01)
A 6 1 P	15/00	(2006.01)
A 6 1 P	25/28	(2006.01)
A 6 1 P	25/30	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
A 6 1 K	31/343	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	45/06	
A 6 1 P	25/24	
A 6 1 P	25/18	
A 6 1 P	3/04	
A 6 1 P	15/00	
A 6 1 P	25/28	
A 6 1 P	25/30	
A 6 1 P	43/00	1 1 1
A 6 1 K	31/343	
A 6 1 P	43/00	1 2 1

【手続補正書】

【提出日】平成19年11月21日(2007.11.21)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

情動障害、摂食障害、恐怖症、気分変調、月経前症候群、認識障害、衝動調節障害、注意欠陥多動性障害、薬物乱用、またはセロトニン再取り込み阻害剤に応答するその他の障害治療用の医薬調合物を製造するために、セロトニン再取り込み阻害剤である化合物、およびH₃受容体に対して0.5 μM以下のアフィニティーを有するH₃受容体アンタゴニスト、インバースアゴニストまたはパーシャルアゴニストであるもう1つの化合物を使用する方法。

【請求項2】

セロトニン再取り込み阻害剤と組み合わせて使用される医薬調合物を製造するために、H₃受容体に対して0.5 μM以下のアフィニティーを有するH₃受容体アンタゴニスト、インバースアゴニストまたはパーシャルアゴニストを使用する方法。

【請求項3】

セロトニン再取り込み阻害剤の治療効果のより速い発現を増強および／または提供するのに有用な医薬調合物を製造するために、H₃受容体に対して0.5 μM以下のアフィニティーを有するH₃受容体アンタゴニスト、インバースアゴニストまたはパーシャルアゴニストを使用する方法。

【請求項4】

セロトニン再取り込み阻害剤が、情動障害、摂食障害、恐怖症、気分変調、月経前症候群、認識障害、衝動調節障害、注意欠陥多動性障害、薬物乱用、またはSRIに応答するその他の障害の治療に使用される、請求項2または3のいずれか1つに記載の使用方法。

【請求項5】

情動障害、摂食障害、恐怖症、気分変調、月経前症候群、認識障害、衝動調節障害、注意欠陥多動性障害、薬物乱用、またはセロトニン再取り込み阻害剤に応答するその他の障害治療用の医薬調合物を製造するために、セロトニン再取り込み阻害剤である化合物、およびH₃受容体に対して0.5 μM以下のアフィニティーを有するH₃受容体アンタゴニスト、インバースアゴニストまたはパーシャルアゴニストである化合物を使用する方法。

【請求項6】

情動障害の治療が、うつ病、不安障害、全般性不安障害、パニック不安、強迫性障害、急性ストレス障害、心的外傷後ストレス障害および社会不安障害からなる群から選択される、請求項1～5のいずれか1つに記載の使用方法。

【請求項7】

摂食障害の治療が、過食症、食欲不振および肥満からなる群から選択される、請求項1～6のいずれか1つに記載の使用方法。

【請求項8】

選択的セロトニン再取り込み阻害剤が使用される、請求項1～7のいずれか1つに記載の使用方法。

【請求項9】

H₃受容体に選択的である化合物が使用される、請求項1～8のいずれか1つに記載の使用方法。

【請求項10】

H₃受容体におけるアンタゴニストまたはインバースアゴニストが使用される、請求項1～9のいずれか1つに記載の使用方法。

【請求項11】

H₃受容体アンタゴニストが使用される、請求項1～10のいずれか1つに記載の使用方法。

【請求項12】

SRIがシタロプラム、エスシタロプラム、フルオキセチン、セルトラリン、パロキセチン、フルボキサミン、ベンラファキシン、ダポキセチン、デュロキセチン、ビラゾドン、ネファゾドン、イミプラミン、フェモキセチンおよびクロミプラミンから選択される、請求項1～11のいずれか1つに記載の使用方法。

【請求項13】

H₃受容体アンタゴニスト、インバースアゴニストまたはパーシャルアゴニストがチオペラミド、シプロキシファン、ヨードフェンプロピット、GR 175737、ヨードプロキシファン、プロキシファン、パーセプチン、JB 98064、VUF 9153、A 304121、ABT923、ABT 834、A 923、A 320436、A 331440、A 349413、A 349821、A 417022、A 423579、A 424835、A 431404、AQ 0145、FUB 181、FUB 360、FUB 407、FUB 637、FUB 836、GR 168320、GSK 189254A、GSK 207040A、GT 2016、GT 2104、GT 2209、GT 2212、GT 2227、GT 2232、GT 2390、GT 2349、GT 2355、GT 2394、イモプロキシファン、イムペンタミン、JNJ 5207852、NNC 0038 0000 1049、NNC 0038 0000 1202、SCH 50971、SCH 79687、UCL 1199、UCL 1283、UCL 1390、UCL 1409、UCL 1860、UCL 1972、UCL 2065、UCL 2138、UCL 2173、UCL 2283、ベロンガミン、VUF 4163、VUF 5000、VUF 5182から選択される、請求項1～12のいずれか1つに記載の使用方法。

【請求項14】

セロトニン再取り込み阻害剤である化合物、およびH₃受容体に対して0.5μM以下のアフィニティーを有するH₃受容体アンタゴニスト、インバースアゴニストまたはパーシャルアゴニストであるもう1つの化合物、および場合により薬学的に許容されるキャリアーまたは希釈剤を含む医薬調合物。

【請求項15】

使用されるセロトニン再取り込み阻害剤が選択的セロトニン再取り込み阻害剤である、請求項14記載の医薬調合物。

【請求項16】

H₃受容体アンタゴニスト、インバースアゴニストまたはパーシャルアゴニストがH₃受容体に関して選択できる、請求項14または15のいずれか1つに記載の医薬調合物。

【請求項17】

H₃化合物がH₃受容体アンタゴニストである、請求項14～16のいずれか1つに記載の医薬調合物。

【請求項18】

セロトニン取り込み阻害剤がシタロプラム、エスシタロプラム、フルオキセチン、セルトラリン、パロキセチン、フルボキサミン、ベンラファキシン、ダポキセチン、デュロキセチン、ビラゾドン、ネファゾドン、イミプラミン、フェモキセチンおよびクロミプラミンから選択されることを特徴とする、請求項14～17のいずれか1つに記載の医薬調合物。

【請求項19】

H₃リガンドがチオペラミド、シプロキシファン、ヨードフェンプロピット、GR 175737、ヨードプロキシファン、プロキシファン、パーセプチン、JB 98064、VUF 9153、A 304121、ABT923、ABT 834、A 923、A 320436、A 331440、A 349413、A 349821、A 417022、A 423579、A 424835、A 431404、AQ 0145、FUB 181、FUB 360、FUB 407、FUB 637、FUB 836、GR 168320、GSK 189254A、GSK 207040A、GT 2016、GT 2104、GT 2209、GT 2212、GT 2227、GT 2232、GT 2390、GT 2349、GT 2355、GT 2394、イモプロキシファン、イムペナタミン、JNJ 5207852、NNC 0038 0000 1049、NNC 0038 0000 1202、SCH 50971、SCH 79687、UCL 1199、UCL 1283、UCL 1390、UCL 1409、UCL 1860、UCL 1972、UCL 2065、UCL 2138、UCL 2173、UCL 2283、ベロンガミン、VUF 4163、VUF 5000、VUF 5182から選択されることを特徴とする、請求項14～18のいずれか1つに記載の医薬調合物。

【請求項20】

活性成分の同時投与に適合する、請求項14～19のいずれか1つに記載の医薬調合物。

【請求項21】

前記活性成分が同一の単位剤形に含まれる、請求項20記載の医薬調合物。

【請求項22】

前記活性成分の連続投与に適合する、請求項14～19のいずれか1つに記載の医薬調合物。

。

【請求項23】

前記活性成分が別々の単位剤形に含まれる、請求項20または22のいずれか1つに記載の医薬調合物。